

2025年3月期決算 ご説明資料

2025年5月29日



Standard Market | 5013

ユシロ化学工業株式会社は、2025年4月1日に、
株式会社ユシロに社名を変更いたしました。

INDEX

2025年3月期 決算業績概要 Results	3	中期経営計画の進捗状況 Progress	18
決算サマリー	4	経営目標	19
2025年3月期 実績（連結）	5	基本方針の進捗	20
2025年3月期 業績概要（連結）	6	基本方針① 収益基盤の安定 航空機向け販売の拡大	21
営業利益（連結）増減要因分析	7	基本方針② 注力分野での事業推進 モノづくり	22
エリア別売上高	8	基本方針② 注力分野での事業推進 クレンリネス	23
海外連結子会社売上高（現地通貨） アメリカ・ブラジル・メキシコ・中国	9	基本方針② 注力分野での事業推進 キー・マテリアル	24
海外連結子会社売上高（現地通貨） タイ・インド・マレーシア・インドネシア	10	基本方針③ サステナビリティの推進 評価の方向性を定めモニタリング実施	26
貸借対照表（連結）	11	財務・投資戦略	27
キャッシュ・フロー計算書（連結）	12	PBR改善に向けた取り組み（現状分析）	28
株主還元	13	PBR改善に向けた取り組み	29
2026年3月期 業績予想 Forecast	14	《参考資料》 Appendix	31
アメリカ関税政策の当社事業への影響	15	会社概要	32
2026年3月期 業績予想（連結）	16	ユシログループ 国内外ネットワーク	33
営業利益（連結）増減要因分析	17	財務データ推移	34

2025年3月期 決算業績概要

- 売上高・利益とも過去最高を記録

売上高

日本では主要顧客である自動車メーカーの
生産回復遅れの影響あるが、
海外での販売が堅調

55,512百万円（前期比4.8%増）

経常利益

為替差益がなくなったが、
持分法投資利益の増加が寄与

6,096百万円（前期比31.7%増）

営業利益

日本では原材料価格が高止まるも、
海外において原材料費を始めとした
製造コストが抑えられたことが寄与

5,068百万円（前期比40.1%増）

親会社株主に帰属する当期純利益

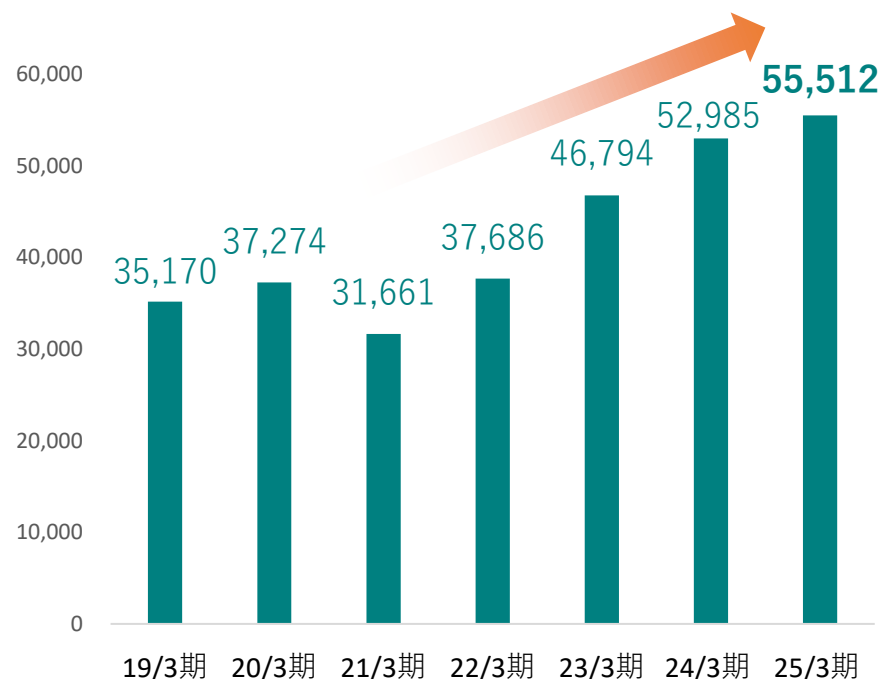
経常利益の増加に加え、
関係会社株式売却益の計上が寄与

4,315百万円（前期比43.4%増）

- 売上高は、原材料価格に追隨した販売価格の改定、海外における拡販によりコロナ前の水準を大きく上回る
- 営業利益は、コロナ禍からの回復、販売価格改定及び円安による為替の影響により粗利確保で増加

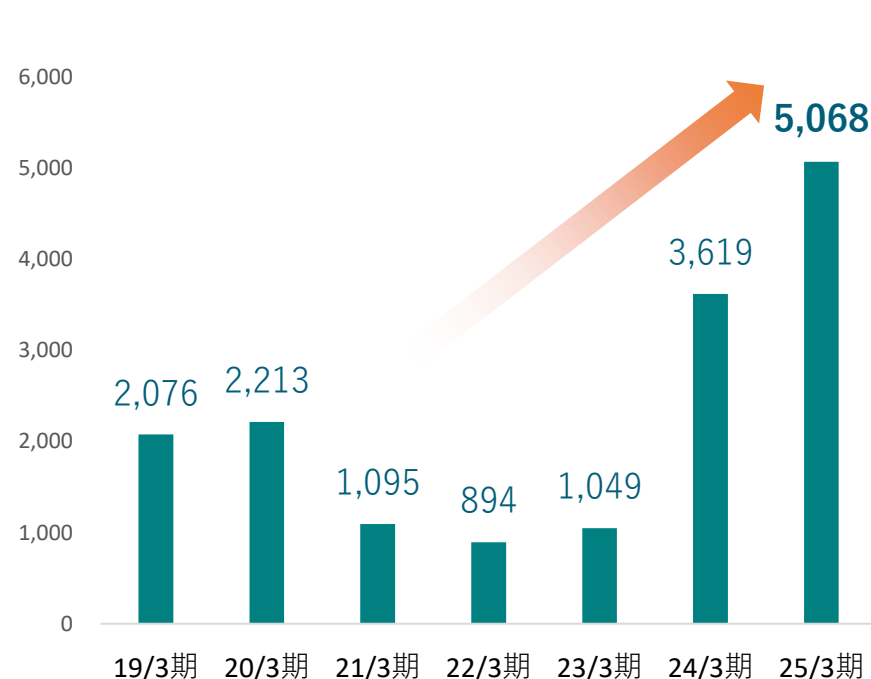
売上高

(百万円)



営業利益

(百万円)



2025年3月期 業績概要（連結）



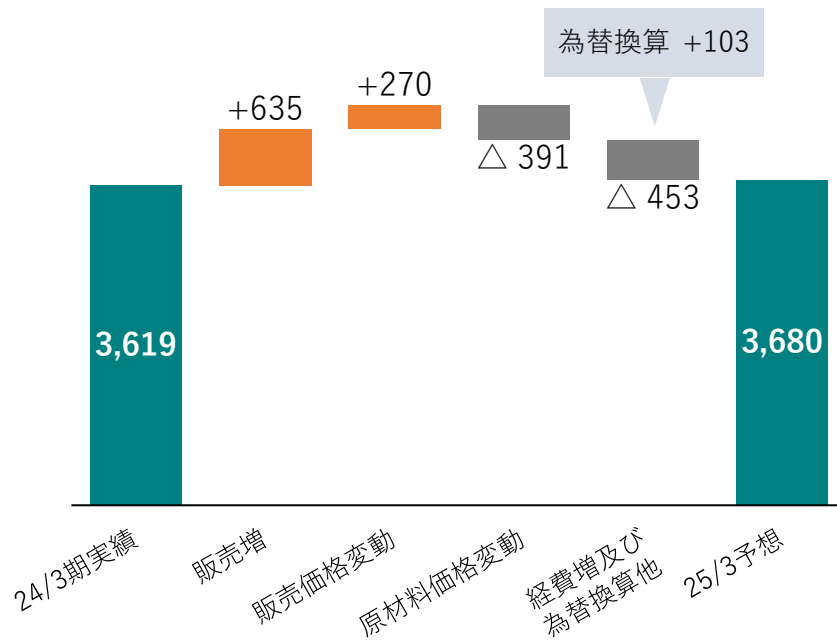
- 日本国内における販売は伸び悩むも、北米、メキシコを中心に海外での販売が堅調
- 様々なコスト上昇要因はあったが、一層の原価低減に取り組むとともに、価格改定も進んだことにより大幅増益

	24/3期	業績予想 (期初)	業績予想 (24年11月8日開示)	25/3期実績	前期比 増減額	前期比 増減率
(百万円)						
売上高	52,985	55,500	55,500	55,512	+ 2,527	+ 4.8%
営業利益	3,619	3,680	4,740	5,068	+ 1,449	+40.1%
経常利益	4,628	4,340	5,640	6,096	+ 1,468	+31.7%
当期純利益	3,010	3,100	4,100	4,315	+ 1,304	+43.4%
R O E	8.0%	7.5%	—	10.3%	—	—

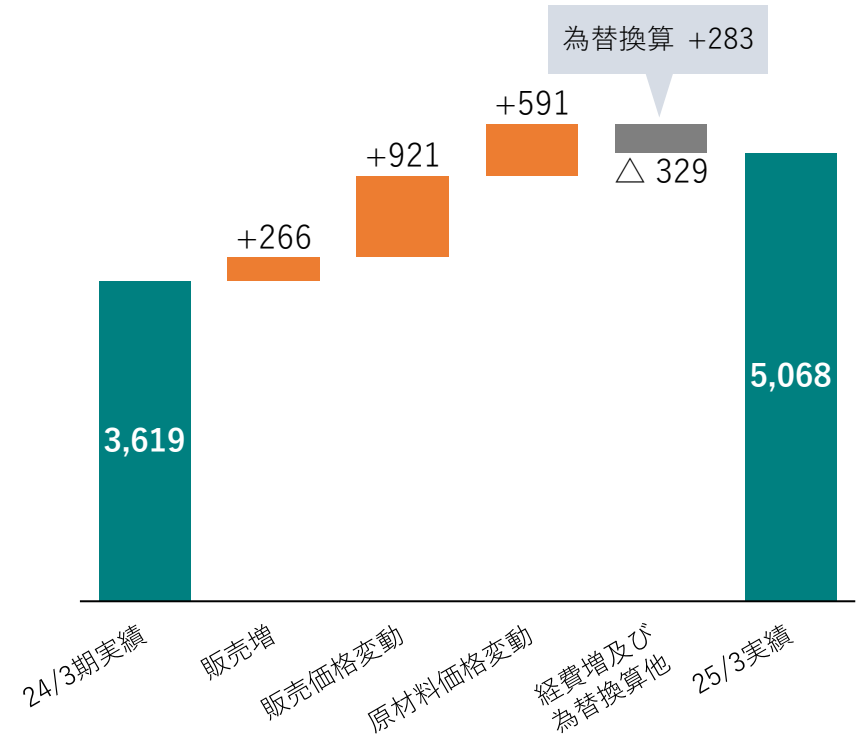
営業利益（連結）増減要因分析

- 経費等のコスト上昇に対応した価格見直しが進み、さらに海外において原材料費を抑制できたことにより大幅増益

2025年3月期 期初予想 (百万円)



2025年3月期 実績 (百万円)



- 日本の販売は伸び悩むも、北米、メキシコを中心に海外の販売が堅調に推移したこと、また円安による為替換算上の影響もあり、海外の売上構成は65%に達する

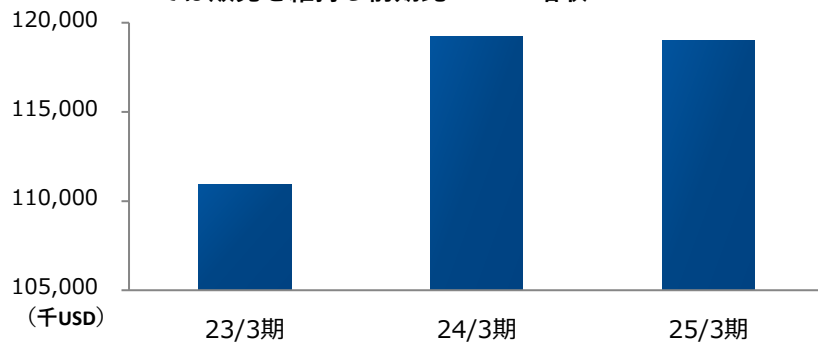
	24/3期実績		25/3期予想		25/3期実績		24/3期との比較 (売上高増減額) (売上高増減率)
	売上高 (億円)	構成比 (%)	売上高 (億円)	構成比 (%)	売上高 (億円)	構成比 (%)	
日 本	196	37.0	202	36.5	194	35.0	△1.7億円 △0.9%
南北アメリカ	206	39.1	224	40.4	225	40.7	+19.1億円 +9.3%
中 国	60	11.4	60	10.9	62	11.2	+1.7億円 +2.8%
東南アジア インド	66	12.5	67	12.2	72	13.1	+6.1億円 +9.3%

海外連結子会社売上高（現地通貨）

アメリカ



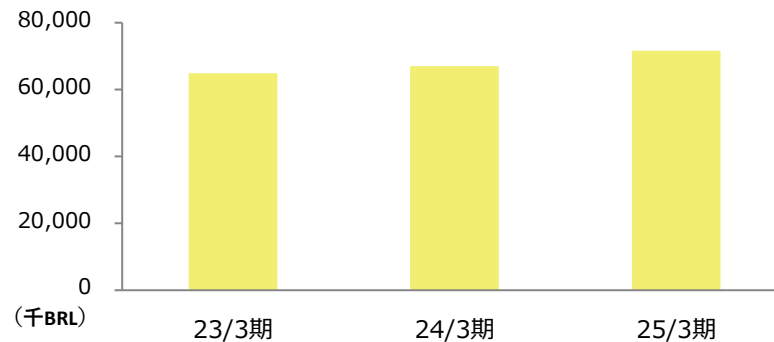
堅調なアメリカ経済に支えられ、アメリカユシロは、メキシコへの輸出分を現地のユシロメキシコに移管したが、好調だった前期並みをキープ
クオリテムは、航空産業の品質問題の逆風下でも全体では販売を維持し前期比0.8%の増収



ブラジル



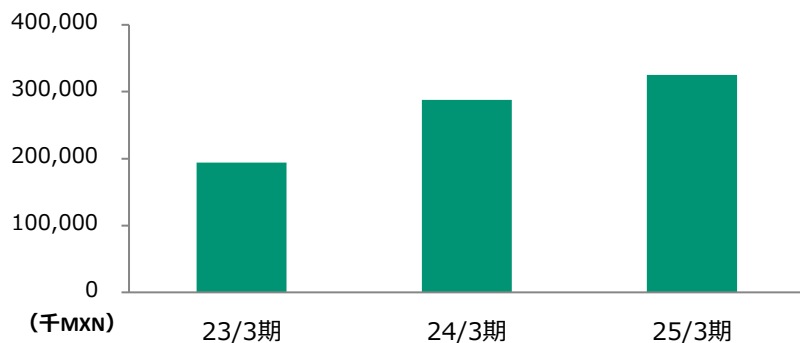
販売は上期は低調であったが下期に回復、販売価格改定の効果もあって前期比6.8%の増収



メキシコ



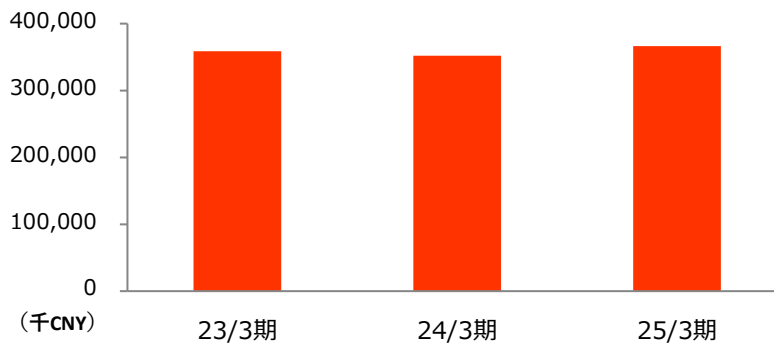
米国の自動車販売増を受け、日系自動車メーカー・部品メーカーが好調を維持、販売価格改定の効果もあって前期比13.1%の増収



中国



E V 化の進行による日系自動車メーカーの生産台数減の影響は続いているが、24/3期下期からは持ち直しつつあり前期比4.2%の増収

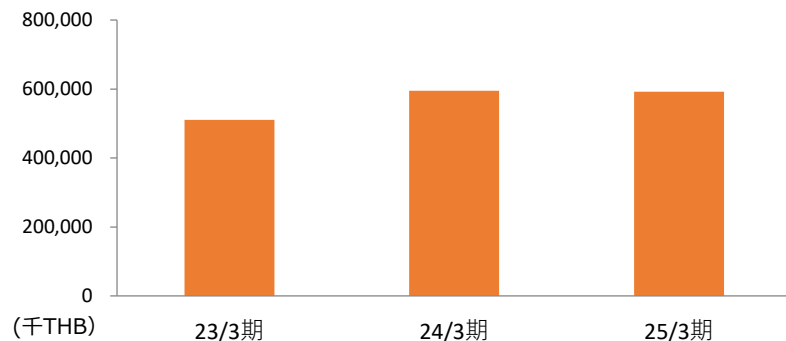


海外連結子会社売上高（現地通貨）

タイ



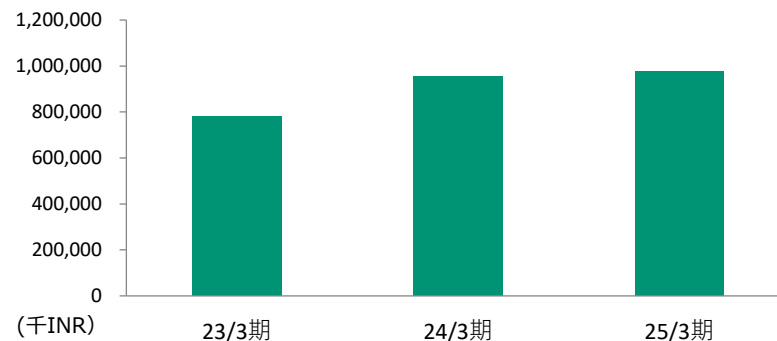
ローン金利上昇等による自動車販売の低迷の影響により販売数量を落として前期比0.6%の減収



インド



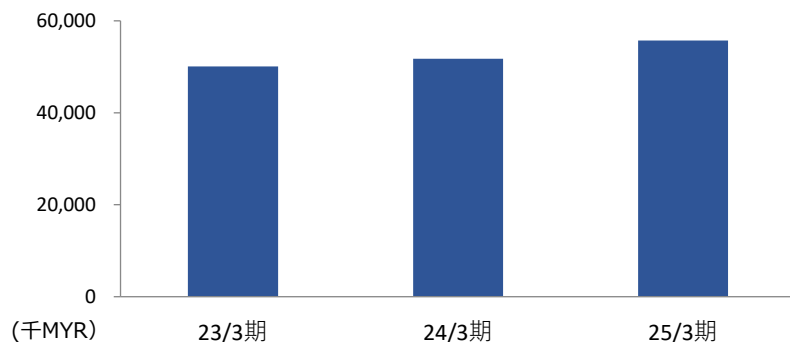
主要得意先における自動車生産、二輪生産が好調推移し前期比2.4%の増収



マレーシア



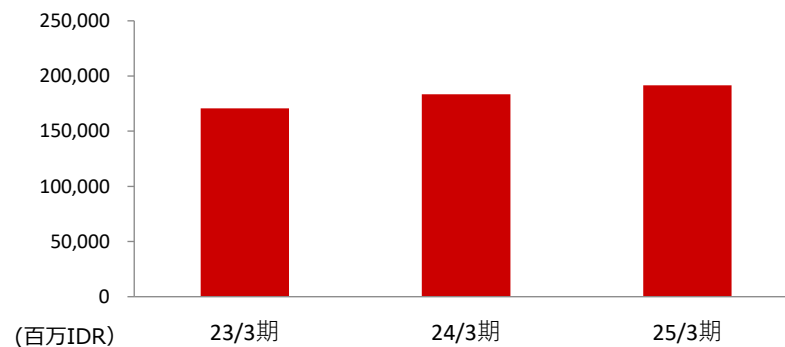
国内は前期並みも、ベトナム、フィリピン向けの輸出が好調、販売価格改定の効果もあって前期比7.7%の増収



インドネシア



自動車生産は国内・輸出向けともに低迷するも、新規顧客獲得、既存顧客での拡販等により前期比4.4%の増収



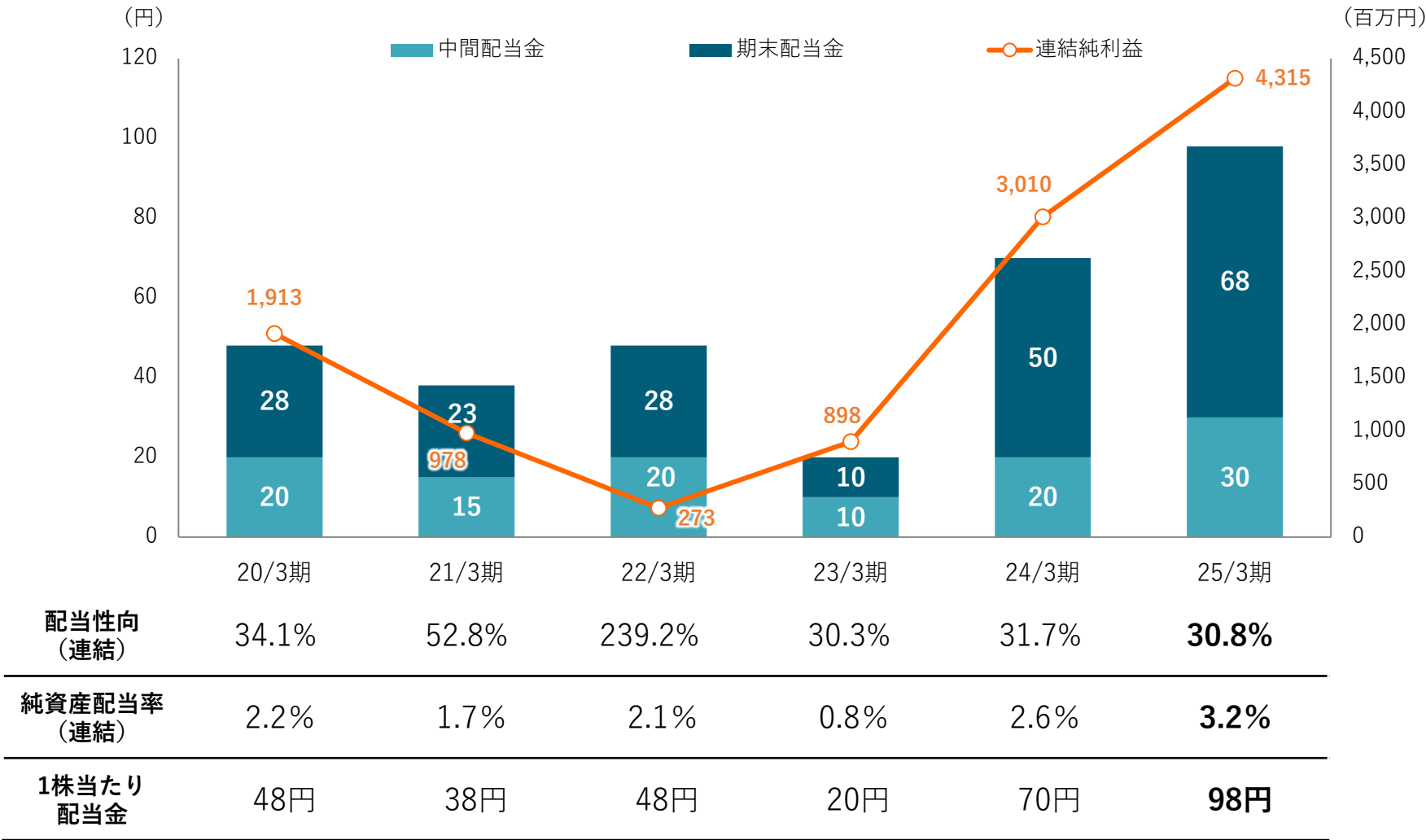
- 資産の増加は、主として棚卸資産等の流動資産の増加によるもの
- 負債の減少は、借入金の約定返済によるもの
- 純資産の増加は、当期純利益の計上に加えて円安による為替換算によるもの

(百万円)	24/3期末	25/3期末	差額
資 産 合 計	62,169	63,404	+1,234
負 債 合 計	19,535	18,433	△1,101
純 資 産 合 計	42,633	44,970	+2,336

- 営業キャッシュは、税金等調整前当期純利益の増加等により変動
- 投資キャッシュは、有形固定資産及び関係会社株式の売却収入の減少により変動
- 財務キャッシュは、株主配当の増加等により変動

(百万円)	24/3期末	25/3期末	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,304	4,805	+500
投資活動によるキャッシュ・フロー	413	△1,139	△1,553
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,603	△2,411	△807
現金及び現金同等物に係る換算差額	538	524	△14
現金及び現金同等物の増減額	3,654	1,778	△1,875
現金及び現金同等物の期首残高	7,327	10,981	+3,654
現金及び現金同等物の期末残高	10,981	10,499	△482

● 連結配当性向を30%以上とし、投資とのバランスを考慮の上、安定的な配当を目指す



2026年3月期 業績予想

アメリカ関税政策の当社事業への影響

事業エリア	想定されるリスク	財務 影響度	見通しと対策
アメリカ	原材料費・物流費の上昇による製造コスト増加	中	原材料費は原油価格の動きを受けて落ち着きあり 物流費・人件費は上昇基調で状況により価格改訂検討
	メキシコなどアメリカ外からの輸入で対応している製品のコスト増加	低	アメリカ事業を担うアメリカユシロとクオリケムは同国内での生産がほとんど
	自動車需要の減退による自動車メーカーの生産調整・縮小	高	主要顧客の日系自動車メーカーは在庫調整しつつ、様子見の状況。正常化のタイミングは注視が必要
	インフレ進行による需要の減少	高	足元は需要の減少の動きはないが、高関税による小売価格への影響は注視必要
アメリカ以外	自動車・自動車部品の対米輸出減少を契機にした世界的な自動車の生産調整・減少	高	足元は、生産のアロケーション調整や在庫調整による対応が主で、本格的な減産の動きはないが、注視は必要
	関税回避のための生産地移管とサプライチェーン再構築	低	日本から製品を輸出しているわけではなく、原則、各地域で仕入・製造・販売を行う体制を構築済
	米中の高関税設定による中国での需要減少	低	中国では、主要顧客の日系自動車メーカーは自国内向け需要であり、アメリカ向けの生産は僅少

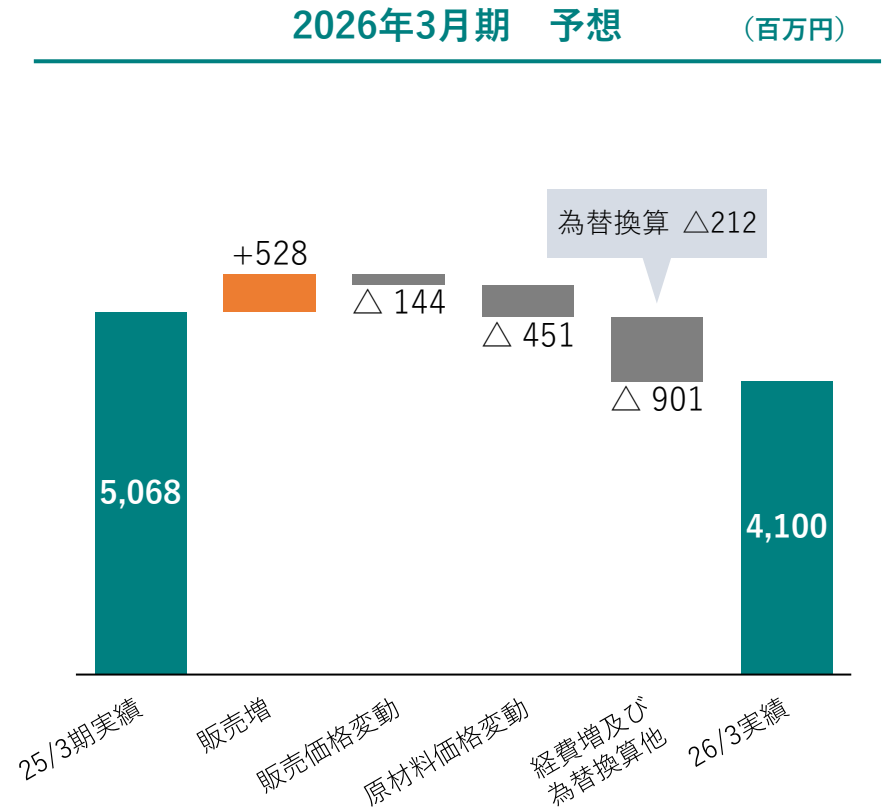
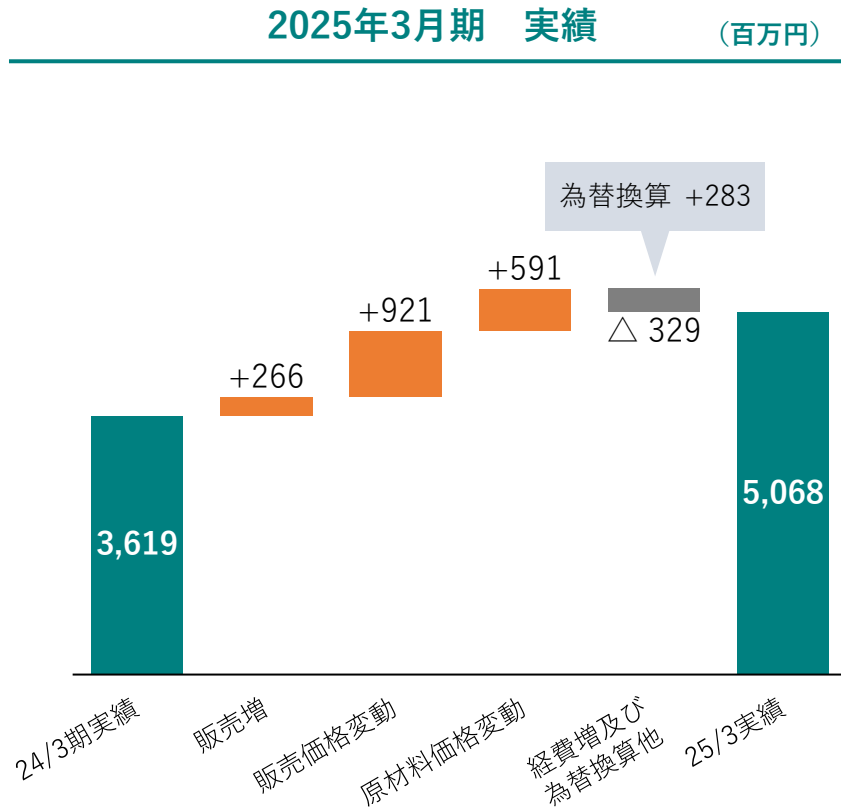
2026年3月期 業績予想（連結）

- 売上高は、一部地域でのアメリカ関税政策による需要減、及び円高による換算上のマイナス影響を反映し減収を予想
- 利益面は、販売減に加え、インフレ等による経費・人件費増、換算によるマイナス影響を反映し減益を予想。なお、当期純利益は、保有資産の見直し・売却等により増益を見込む

	25/3期実績	26/3期予想	前期比	
(百万円)			増減額	増減率
売上高	55,512	55,200	△312	△0.6%
営業利益	5,068	4,100	△968	△19.1%
経常利益	6,096	4,700	△1,396	△22.9%
当期純利益	4,315	4,350	+34	+0.8%
R O E	10.3%	10.0%	—	—
為替レート	151¥/\$	145¥/\$	—	—

営業利益（連結）増減要因分析

- 25/3期は販売価格の見直しに加え、原材料費の抑制に取り組み増益
- 26/3期は拡販に努めるが、経費の増加に加え、為替換算影響を見込み減益



中期経営計画の進捗状況

EXPLORER 
PLUS

2025年3月期 - 2027年3月期

- 中計1年目は為替など効果で営業利益は目標達成
- 2年目以降も、目標の水準維持を狙い、中計の打ち手の成果刈り取り

(億円)	24/3期実績	25/3期実績	26/3期予想	27/3期目標	25/3期との比較
売上高	529	555	552	600	+45
営業利益	36	50	41	50	±0
営業利益率	6.8%	9.1%	7.4%	8.3%	△0.8%
経常利益	46	60	47	61	+1
当期純利益	30	43	43	43	±0
ROE	8.0%	10.3%	10.0%	10.0%以上	—
為替レート		151¥/\$	145¥/\$	140¥/\$	—

1

収益基盤の安定

自動車向け

- 売上・営業利益は円安フォローもあり過去最高更新
- 数量では伸び悩むものの適切な粗利率確保

航空機向け

- MRO※各社の工場新設に向け、製品展開中
- 航空機OEM各社への認証油プロセス進行

2

注力分野での事業推進

モノづくり

- 新製法のギガ関連でユーザーへのアプローチ進行
- ノンボンデ薬剤などのCO2削減効果製品の実績拡大

クレンリネス

- ガラスコーティングは床用に加え鉄道車両へ展開
- 洗濯槽クリーナーはOEM先とのタイアップで拡大

キー・ マテリアル

- 自己修復素材は添加剤用途の実績例増加
- ゲルとしても先端技術の展示物に採用
- ヒカリアクションの防カビ、防コケ、産業用消臭で実績化

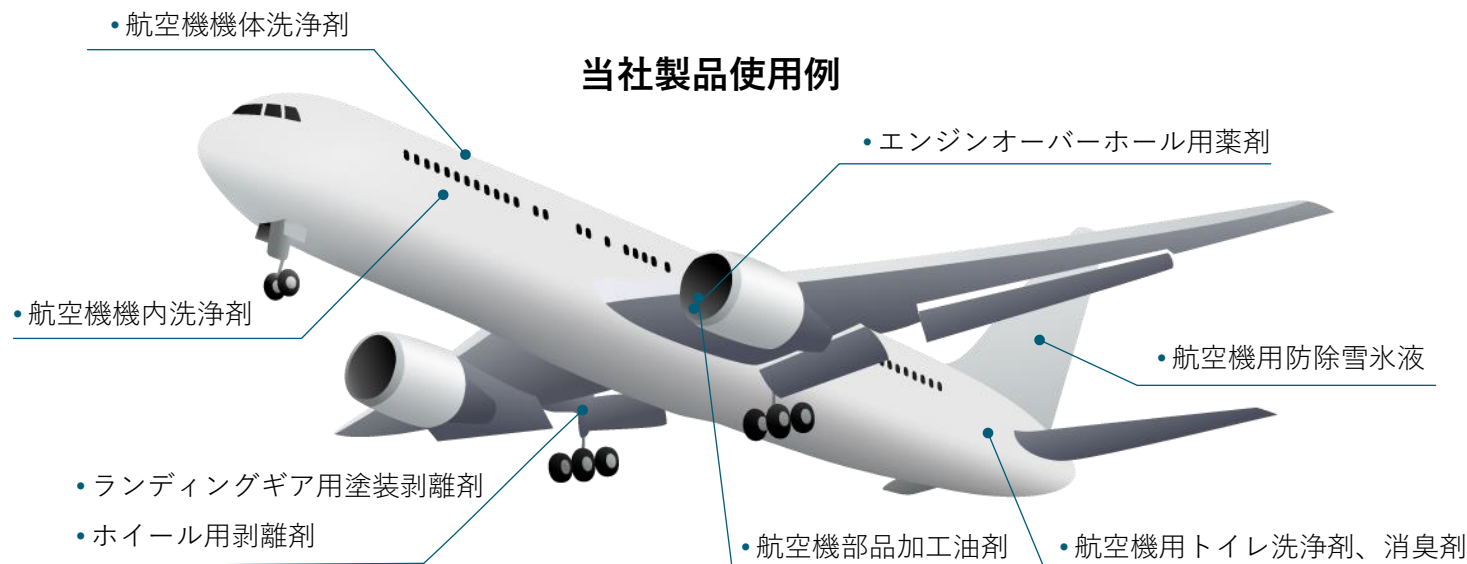
3

サステナビリティの推進

- 各拠点へのKPI設定のカバー率増加、次期中計で目標展開に目途

※MRO：Maintenance（整備）Repair（修理）Overhaul（オーバーホール）
航空機の整備や修理、オーバーホールに関わる業務全般

● 日本・米州・欧州・アジアを中心に販売拡大推進中



日本

- 航空機洗浄剤
 - 金属加工油剤
- ➡ 採用拡大

米州・欧州

新規認証油剤増加

アジア

代理店網拡大

- 新製法のギガキャスト関連でユーザーへのアプローチ進行
- ノンボンデ薬剤などのCO2削減効果製品の実績拡大

CO2削減製品

常温洗浄洗浄剤

加温洗浄工程での洗浄液常温化



ノンボンデ薬剤

金属の潤滑被膜形成時の工程削減

新製法対応製品

ギガキャスト 関連製品

自動車部品の新製法対応

➡ 車体加工分野への参入

サステナブル貢献製品

塩素フリー 切削油

有害物質の原因となる
塩素非含有品

低ミスト切削油

作業環境の向上、
切削油の使用量低減



少量塗布 DC※離型剤

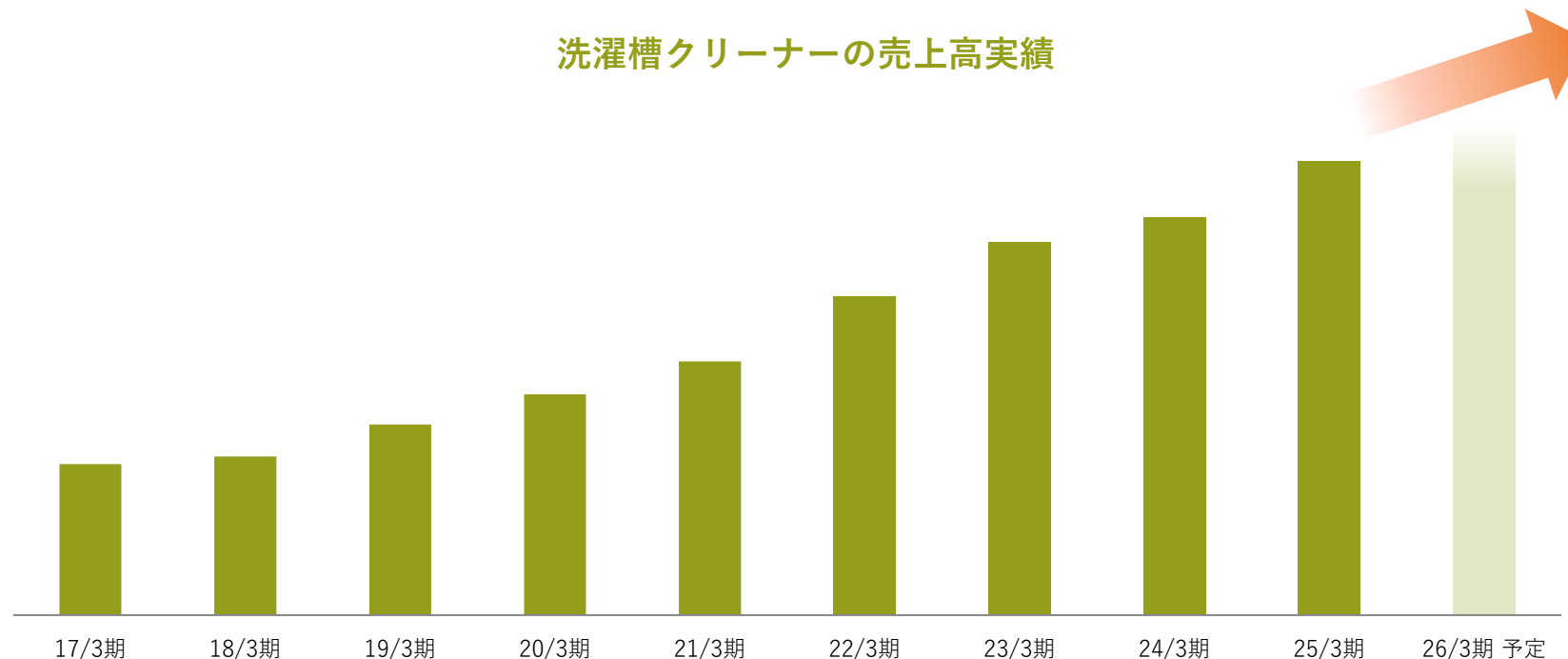
離型剤の使用量低減
※DC = ダイキャスト (アルミ casting)

床向け ガラスコート

被膜寿命向上、作業頻度減少

- 洗濯槽クリーナーはOEM先とのタイアップで拡大

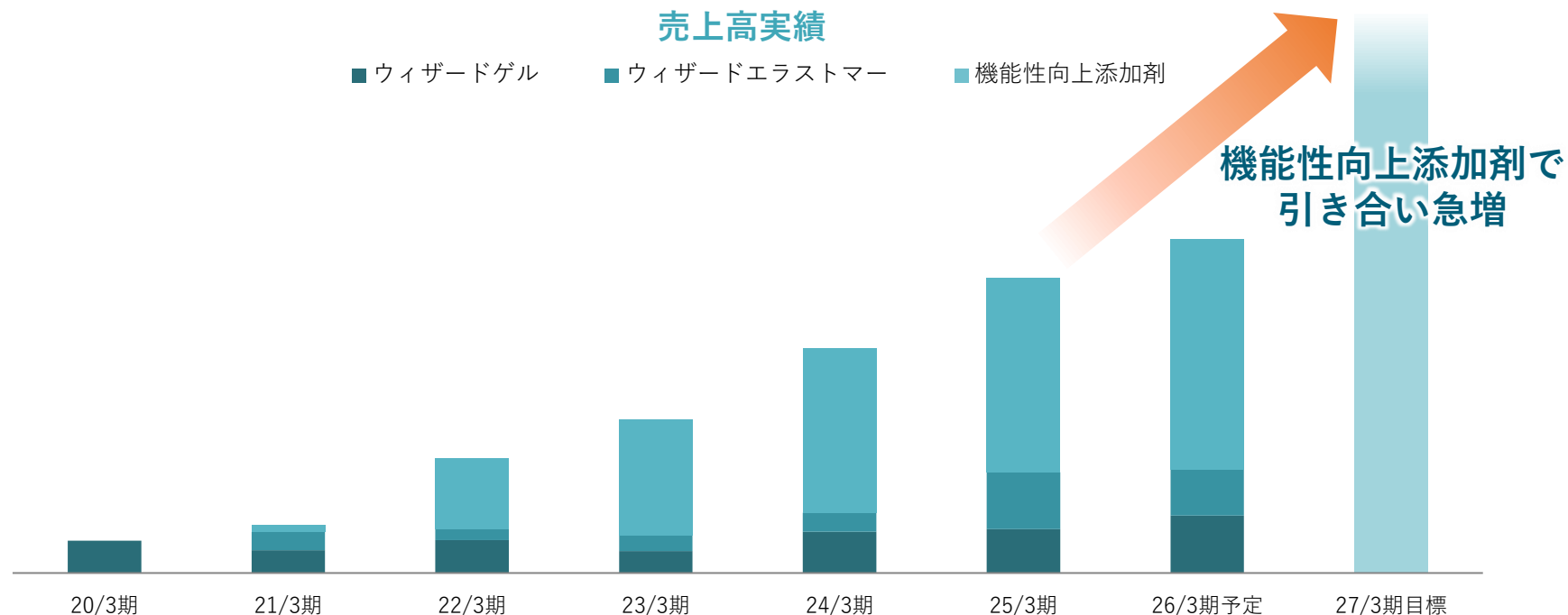
洗濯槽クリーナーの売上高実績



戦略

- 家電メーカー業界の洗濯槽クリーナーの認知による底上げ
- 衛生面に対する意識の維持によりリピート需要
- OEM先との戦略共有

● CD誘導体関連製品は、順調に推移



ウィザードゲル

- 切断傷も修復可能な水分を含む柔らかな材料
- 型に注ぎ、あらゆる形に成形が可能



ウィザードエラストマー

- 紫外線で硬化可能
- 溶媒を含まないゴムライクな材料
- 光造形方式の3Dプリンターにも適用可能

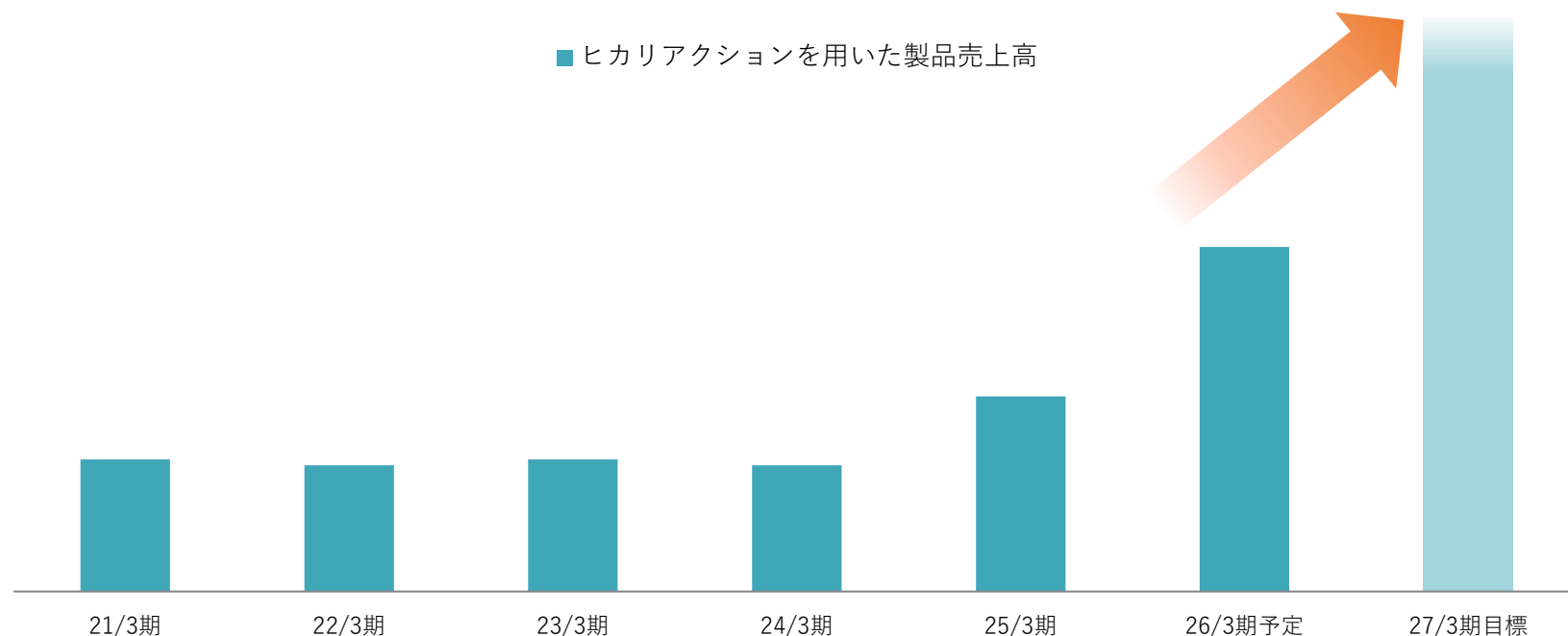


機能性向上添加剤

- 樹脂材料の少量配合
- 耐久性・伸縮性の向上に寄与
- 様々な材料に配合可能

※CD誘導体：当社合成技術を加えた化学反応性のシクロデキストリン（CD）の意。CDは植物由来の原材料

- 除菌消臭剤の「ぴきやみん」に加え、「ヒカリアクション」ラインナップ拡充
- 防コケ・防カビ用途製品の国内大規模テーマパークで採用
- 食品関連での機械冷却水用添加剤



採用実績

- 「ぴきやみん」：一般消費者、レストラン、レジャー施設など
- 「おそとのぴきやみん」：国内大規模テーマパーク
- 「機械冷却水用添加剤」：食品関連工場

- 当社サステナビリティ基本方針に基づきESG関連データを整備
- 2025年度には、再エネ電力の購入、自家用太陽光発電設備投資を実行

分野	KPI・項目
環境	●CO₂排出量 ●ドラム缶回収率 ●廃油再生率 ●ベースオイルに占める非石油由来原料使用 ●各種法規制逸脱指摘件数
安全	●労働災害件数 ●リスクアセスメント実施件数 ●安全衛生委員会開催件数 ●過去災害事例等を用いた教育の回数
品質	●工場責任者会議開催件数 ●品質監査実施回数 ●全社責任者会議での品質関連テーマ報告件数 ●顧客満足度調査評点

分野	KPI・項目
化学物質	●政府指摘件数 ●政府報告件数
贈収賄・ 腐敗行為 防止	●贈収賄・腐敗行為防止に関連する重大な法令違反件数 ●従業員へのビジネス・コンダクト・ガイドラインの周知回数
人権	●女性従業員比率 ●年次有給休暇取得率 ●差別・ハラスメントに関する教育：教育・研修件数 ●ストレスチェック実施人数

- 成長・維持および更新に対する投資や、株主還元および財務体質の強化に充当
- 初年度として計画の3割弱を実行

132億円

投資	● 原料一括購入による原価低減のための物流倉庫の増築	15億円
	● 生産性向上のためのIT投資	10億円
	● 国内設備 維持・更新投資（減価償却費並）	12億円
	● 海外設備 維持・更新投資	25億円
	● 戦略案件投資	20億円
株主還元	● 配当（連結配当性向30%以上） ● 自己株式の取得	50億円
財務体質強化施策	● 借入返済等	

投資実績（25.3期）

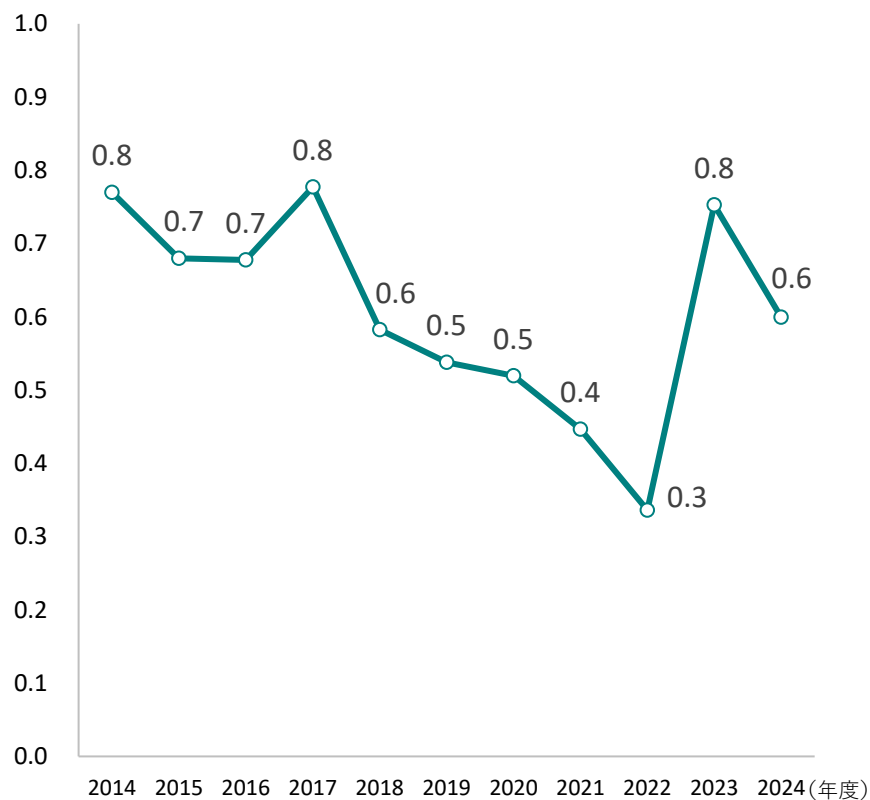
- 敷地造成/舗装
 - 新ERP/営業DX導入準備
 - 生産設備の合理化投資
 - 研究開発機能の充実・強化投資
 - 米QualiChemの生産能力拡張のための投資計画を開始
 - 中間配当：30円
 - 期末配当：68円
 - 自社株買い：2億円
 - 約定返済
- 進捗率：27%

計画変更点

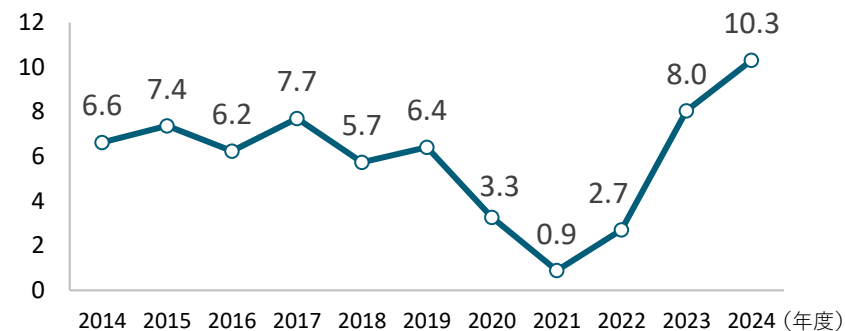
- CD誘導体新プラント建設は外部リソース活用に戦略転換
- 戦略案件投資に機動的な対応をするために追加新設

- PBR1倍割れの状況が継続しており、資本コスト(WACC)を上回るROE水準を安定的に維持できていないことが要因であると認識

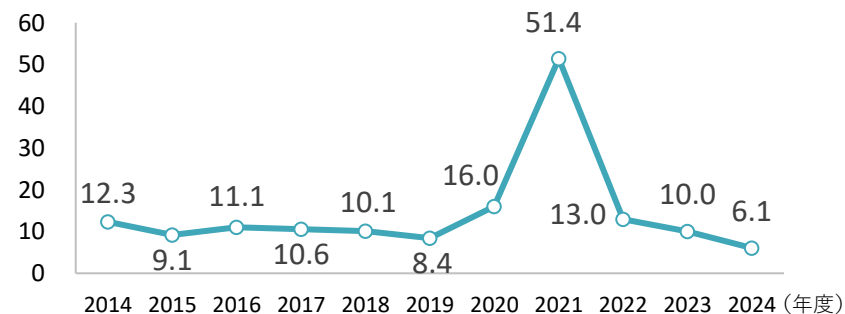
PBR (倍)



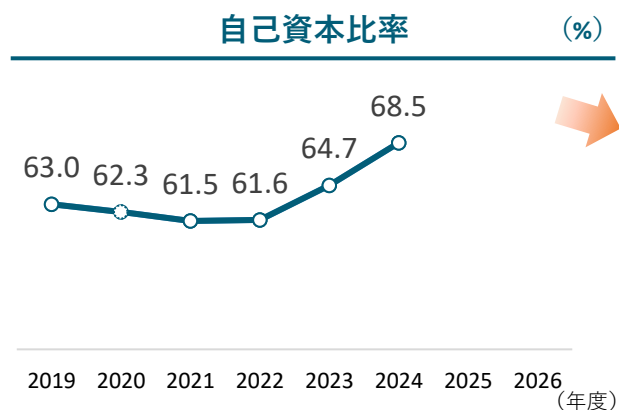
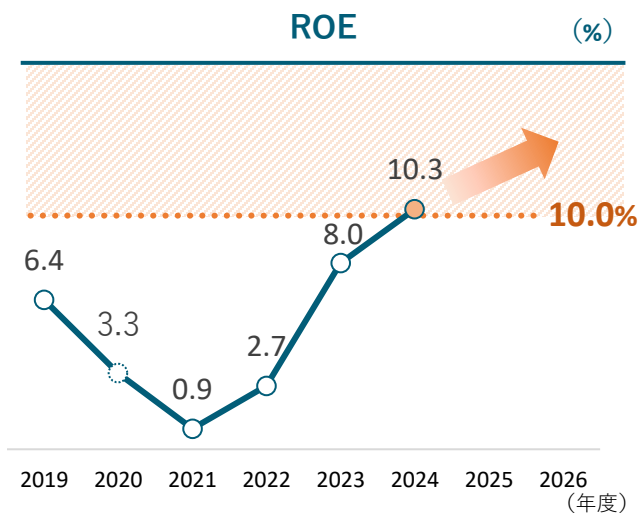
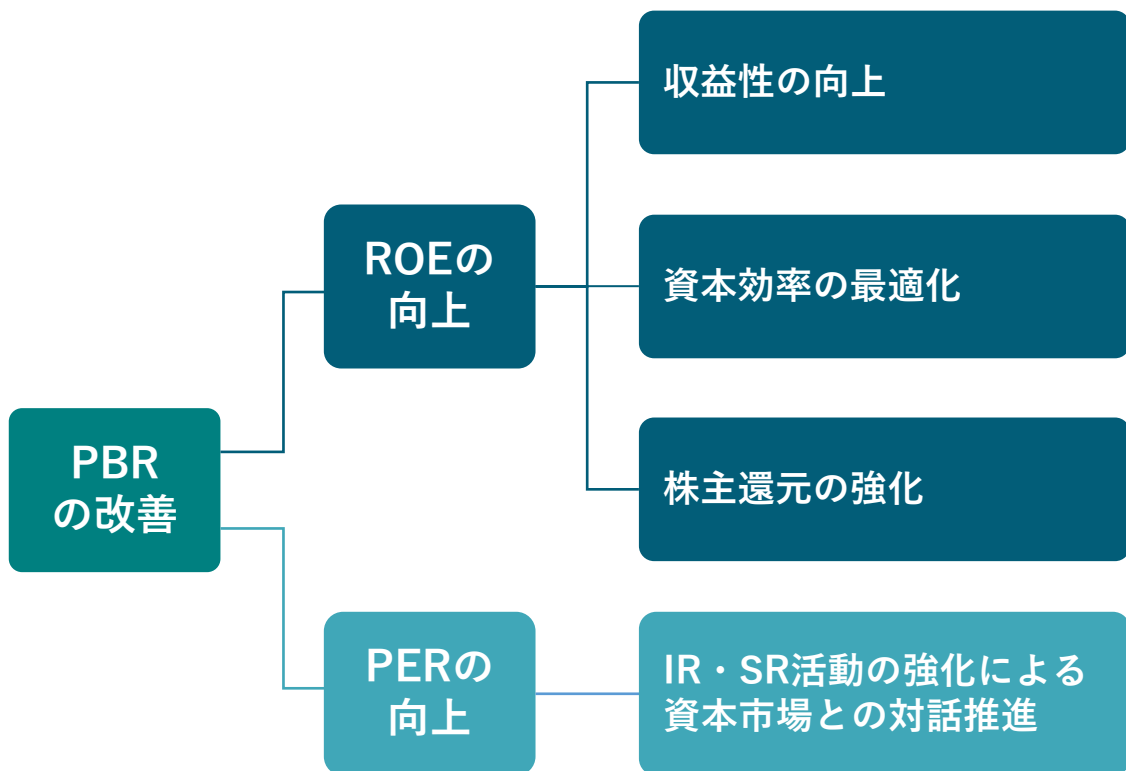
ROE (%)



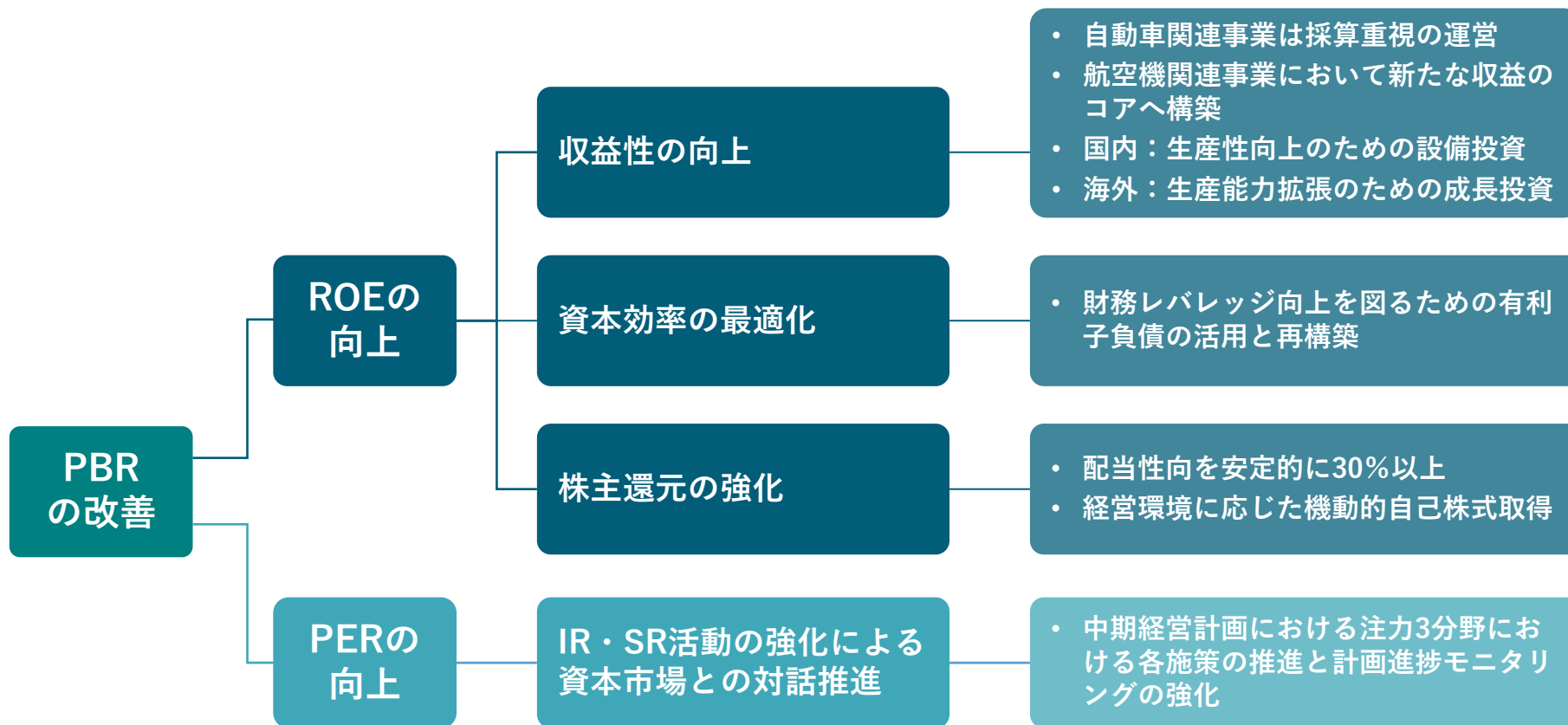
PER (倍)



- 中期経営計画の着実な推進により経営目標の達成を目指すとともに、ROEとPERの向上を重要課題として各種施策に取り組む



- 中期経営計画の着実な推進により経営目標の達成を目指すとともに、ROEとPERの向上に資する課題への対処を強力に進める



- ROEは安定的に10%以上の確保を目指す
- 同時にROEがWACCを上回るエクイティスプレッド拡大の取組の推進

參考資料



会社概要

社 名	株式会社ユシロ (英文名称：Yushiro Inc.)
本 社	東京都大田区千鳥2丁目34番16号
代 表 者	代表取締役社長 有坂 昌規
創 立	昭和19年7月24日
事 業 内 容	・金属加工油剤(切削油剤、圧延油剤、引抜油剤、プレス油剤、ダイカスト離型剤、さび止め油剤、洗浄剤等)の製造・販売 ・ビルメンテナンス製品(フロアメンテナンス用ワックスおよび剥離剤、洗浄剤、メンテナンス用機器)の製造・販売
資 本 金	4,249百万円
連結子会社	【国内】 ・トランスケム株式会社(旧ユシロ運送株)(製品輸送) ・ユシロ・ゼネラルサービス株式会社(倉庫管理業務) 【海外】 北米、南米、アジア地域に合計10社のネットワークを有しています
従 業 員 数	単体：367名 連結：969名 (2025年3月末現在)

海外ネットワーク詳細

地域	国	社名	住所
北米	アメリカ	YUSHIRO MANUFACTURING AMERICA,INC.	米国インディアナ州 シェルビービル市
		QualiChem,Inc.	米国バージニア州セイラム市
	メキシコ	YUSHIRO MEXICO S.A.DE C.V.	メキシコ国 グアナファト州
南米	ブラジル	YUSHIRO DO BRASIL INDUSTRIA QUIMICA LTDA.	ブラジル国 サンパウロ州カサパバ市
アジア	中国	上海尤希路化学工業有限公司	中国上海市宝山区
		如東尤希路化学工業有限公司	中国江蘇省南通市如東県 *持分法適用会社
	タイ	YUSHIRO(THAILAND)CO.,LTD.	タイ国チョンブリ県
	タイ	Siam Cee-Bee Chemical Co., Ltd.	タイ国チョンブリ県
	マレーシア	YUSHIRO MALAYSIA SDN.BHD.	マレーシア国 セランゴール州プチョン
	インドネシア	PT.YUSHIRO INDONESIA	インドネシア国 西ジャワ州カラワン県
	インド	YUSHIRO INDIA COMPANY PRIVATE LIMITED	インド国 ハリヤナ州グルグラム
	ベトナム	YUSHIRO VIETNAM CO.,LTD.	ベトナム国ホーチミン市 *非連結子会社
	台湾	三宜油化股份有限公司	台湾台北市 *持分法適用会社
	韓国	汎字化学工業株式会社	韓国ソウル特別市 *持分法適用会社

- 子会社（国内2社、海外11社）
- 持分法適用会社（海外3社）
- 技術提携会社（海外3社）



(百万円)

	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期
売上高	29,061	30,680	29,605	31,565	35,170	37,274	31,661	37,686	46,794	52,985	55,512
営業利益	1,569	2,169	2,437	2,502	2,076	2,213	1,095	894	1,049	3,619	5,068
経常利益	2,521	2,947	3,017	3,243	2,634	2,718	1,517	1,543	1,442	4,628	6,096
当期 純利益	1,703	1,993	1,697	2,228	1,724	1,913	978	273	898	3,010	4,315



当資料取扱い上の注意

当資料に記されたユシロの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたユシロの経営者の判断に基づいた、将来の業績に対する見通しであります。従いまして、これら業績の見通しの上に全面的に依拠されることは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与え得るリスクや不確定な要素には、以下のものが含まれます。

- ①ユシログループの事業環境を取り巻く世界情勢
- ②世界の原油価格動向
- ③米ドルを中心とした為替レートの変動
- ④偶発事象 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確定な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでユシロをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。

